



千葉労働新聞

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 | (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.10.25 No. 3482

わざかばかりの正当引き上げと 動乗勤改悪の取り引きを許すな

動乗勤改悪問題で 大混乱のJR東労組

JR東労組は、動乗勤改悪問題をめぐって、収拾のつかない大混乱状態に陥っている。

八月六日の提案前、数ヶ月にわたってJR当局と秘密裏に事前の検討を行い、合意の上で提案されたにもかかわらず、現場からの反発、怒りの声がまきおこってしまい二進も三進もいけなくなっってしまったのである。

しかもそれに加え、西日本、東海から始まったJR総連の分裂ニ革マル排除の動きが、今度は九州、四国で火を吹きJR九州労組も年内分裂という事態に至っている。

「われわれは御用組合ではない」などと笑止千万なカラ騒ぎをしてみても、JR各社のなかで始めて、かつ最悪の動乗勤改悪攻撃を事前に合意し

てしまっていることが明らかとなってしまうえば、彼らこそが御用組合中の御用組合、すさまじい労働強化の手先であることが歴然としてしまうのである。しかもこの問題は、革マルの組織的基盤である運輸職場を直撃する問題だ。

すでに各現場からは「ストライキを構えるべき」という声もあがり、

JR東労組松崎による 動乗勤裏切りを結許すな

そこで、JR東労組松崎は、ベテンとゴマカシで乗りきりをはかりはじめている。現場の、ガス抜きのために動乗勤改悪問題で集会を開かせ、分会の決議をあげさせ、

だ。「こんなことがやられるならば東労組など必要がない」等の声が吹き上げている。

しかし、東日本にも革マル排除の波がおしよせるなかで、当局との結託によってしか生きることのできない松崎にしてみれば、この問題で当局と一戦を構えることなど思いもよらぬことである。

十月十四日には、事前の合意にもかかわらず「組合要求」を提出した。しかし、JR東労組が何を意図しているかは明らかである。「組合要求」

当の時間額、キロ額等のわずかばかりの正当引き上げと動乗勤改悪を取り引きしようというのである。

このままでは、どうしようもないかと考えた松崎が、何かひとつでもいい妥結の口実とできるものを何とかしてくれ、と当局に泣きついたのだ。彼らは、団交のなかで、何と「効率化は、やぶさかではない」「手当関係においては、今次制度の改正で会社として成果がある。この成果については返してもらおう」などという議論をしているのである。冗談じゃない！

わざかばかりの手当の増額と動乗勤の抜本的な改悪を取り引きするなどということは絶対にできない！問題は、待ち合わせ時間を見ないこと、準備時間を当局のおもちゃのままに徹底的に切り縮めようとしていること。そして、一継続乗務キ口制限の上

限等を一切取りはらおうとしていることだ。つまり、運輸労働の特殊性を一切否定して、徹底的に思うがままにコキ使おうということである。当局は、「十一月下旬がリミット」と称している。

現場からの怒りの声でJR東労組の裏切り妥結を粉碎しよう！労働者を地獄においおとす動乗勤改悪を粉碎しよう！

**11.4運動会を
成功させよう!**

千葉公園グラウンド. 9時

三〇八二号、アニー
正ト調査「その3」
訂とびつていすか
その下の面をいすか